



1. 日時：2021年7月2日（金）19：00～22：20
2. 場所：静岡県立こども病院およびweb会議（zoom使用）
3. 出席者

理事総数：20名、出席予定理事：19名、欠席予定理事：1名

理事長：坂本喜三郎

副理事長：山岸敬幸

理事：鮎沢衛、赤木禎治、岩本眞理、城戸佐知子、白石公、鈴木孝明、須田憲治、住友直方、土井庄三郎、  
豊野学朋、中野俊秀、檜垣高史、三浦大、三谷義英、安河内聰、山岸正明、芳村直樹、賀藤均(欠席)

監事：市田露子、富田英（途中より出席）

幹事：増谷聡、宮崎文、水野芳子

4. 議長：理事長 坂本喜三郎

5. 議事の経過の要領及びその結果

定刻となり定款第26条3項により坂本喜三郎理事長が議長となり、開会を宣言した。議長より本理事会は定款第27条2項の規定に定める定足数を満たしており適法に成立した旨の報告があった。議長より、本理事会の議事録署名人として岩本眞理理事、城戸佐知子理事が選任された。また、本理事会はweb会議を併用するため議長が、出席者の発言が即時に他の出席者に伝わり出席者が一堂に会するのと同様に適時適切な意見表明が互いにできることを確認し、議事に入った。

6. 坂本理事長挨拶

4年間の任期を終了する坂本理事長より、理事に対し学会運営参加への謝意、特に取り組んできた次世代育成、脳卒中・循環器病対策基本法及び成育基本法に関連したアクティビティ継続への期待等が述べられた。

7. 前回の議事録の確認

坂本理事長より、2020年度第3回理事会議事録の確認が行われた。

8. 審議事項

第1号議案：理事選挙結果と新理事体制について（坂本理事長）

**提案内容** 選挙により選出された選挙理事12名により、理事長に山岸敬幸現副理事長、副理事長に坂本喜三郎現理事長、推薦理事8名、監事3名、幹事4名の新理事体制案が提出されたので承認を得たい。

**議決結果** 全員一致で承認。

第2号議案：評議員新規申請について（坂本理事長）

**提案内容** 今年度32名の新規評議員申請があった。総務委員により申請条件内容を審査した結果、5

名が申請条件を満たさず、うち1名に理由書添付があった。理由書の有無に関わらず、規定の申請条件に沿って評議員を理事会として推薦すべきか承認を得たい。

**討議内容**

- ・理由書の提出により承認する、という条件は定款細則に記載がない。理由書の提出は等しく案内されていないため、理由書を採択すると、条件を満たさないと考え申請しなかった会員に対し不公平となる。
- ・理由書の提出を認めるのであれば、演題数不足の申請者全員に理由書を求めるべき。
- ・学会活動に是非協力をお願いしたい方がいる。評議員ではなくても規程上は委員会の委員長になって頂くことは可能である。

**議決結果**

審査要件を満たした27名については全員一致で承認。5名については承認せず。

緊急追加議案1：定款施行細則第9条4の変更について（坂本理事長）

**提案内容**

・規定の条件は満たしていても評議員としてふさわしい規定を上回る業績があり、学会活動を進める上で評議員であるべきことが必要とされる会員については、理事会で評議員として推薦することができるよう定款施行細則の変更を本日審議したい（理事の3/4の承認で変更可）。定款施行細則第9条4を「新たに推薦される評議員は、次項に定める資格申請または特別な業績に基づいて理事長が理事会の議を経て推薦し、総会の議決に基づき委嘱する。」と変更することについて承認を得たい。

**議決結果**

18名の賛成により承認。

この規定に基づく評議員の更新については今後の検討が必要ではないかと、監事から発言が追加された。

緊急追加議案2：評議員の理事会推薦について

**提案内容**

理事会として上記規定に基づいて評議員申請未承認5名中1名の申請者を評議員として推薦することについて承認を得たい。

**議決結果**

18名の賛成により承認。

最終的には 今回の評議員申請32名中28名が新評議員として承認された。

第3号議案：2020年度決算案について（財務：城戸理事、監事：市田監事・富田監事）

**提案内容**

2020年度決算案を作成した。川崎病ガイドライン販売収入、学術集会余剰金、治験推進事業等により、予算より大幅増収となった。セミナーはオンライン開催となり支出が抑えられ参加者数は増加した。監査結果としても適正に執行されていた。決算案について承認を得たい。

**議決結果**

全員一致で承認。

事業規模が拡大しており公認会計士の監査を検討すべきではないかとの発言があり（監事）、今後検討することになった。

第4号議案：2021年度予算案について（財務：城戸理事）

**提案内容**

2021年度予算案について、事務作業が増加している為事務委託費を増額、将来計画積立金および3カ国フォーラムの積立金を入れた。予算案について承認を得たい。

**討議内容**

- ・専門医機構の認定費用は機構の方針が未確定の為このまま予算に入れておくべき。

**議決結果** 全員一致で承認。

第5号議案： 研究課題Aの採択について（学術(研究)：土井理事）

**提案内容** 「先天性門脈体循環シャントにおける治療法の確立と遺伝学的要因の解明」を研究課題Aに採択することについて承認を得たい。

**議決結果** 全員一致で承認。

第6号議案： 診療報酬改定に関するシンポジウムについて（保険診療：三浦理事）

**提案内容** 若手の医師は特に診療報酬に関わる問題点を知る機会が少ないため企画を考えた。学術集会時に診療報酬に関するシンポジウムを設定することについて承認を得たい。

**討議内容**

- ・理事会の審議無しでも現行は学術集会での企画はできる。
- ・若手医師はセッションを企画しても参加は少ない、現場で伝えるほうが効果的。
- ・保険診療に関する企画は重要。施設の教育プログラムに入れる、研修参加を専門医取得・更新の条件にするなど、検討すべき。

**議決結果** 議決はせず、次回の理事会で再度提案となった。

第7号議案： 第13回国際川崎病シンポジウムへの助成について（坂本理事長）

**提案内容** 2021.10開催予定の第13回国際川崎病シンポジウムについて、日本製薬業連合の協賛（前回500万円）がオンライン開催の為得られなくなった。学会から本シンポジウムへの助成20万円の承認を得たい。

**討議内容**

- ・AHAは5000ドルの助成を決定しており、当学会もしっかり対応したほうがよい。
- ・他学会との公平さを考え、依頼通り20万円の支援とすることが妥当である。

**議決結果** 全員一致で承認。

追加議案：2021年度名誉会員及び特別会員の推薦について（坂本理事長）

**提案内容** 本年は名誉会員・特別会員推戴の年にあたるため、理事経験者及び15年以上評議員経験者、学会に対して顕著な功績のあった評議員について、名誉会員・特別会員への推薦者案を作成した。これについて承認を得たい。

**議決結果** 基準を満たす名誉会員6名及び特別会員20名について全員一致で承認。  
特別会員申請について、評議員15年以上という条件を満たしていない4名が、学会に対して顕著な功績があったという条件を満たすか否かを1名ずつ議決し、過半数以上の賛成により全員が承認された。

## 9. 報告事項：

### ・理事長報告

#### 1) 持ち回り理事会報告

- ・2021年度日本小児循環器学会分科会学術集会・地方会でのWeb開催（Hybrid形式を含む）における専門医更新単位取得の臨時措置案について検討され、承認された。

#### 2) 要望書提出について

以下の要望書を厚生労働省に提出した。

- ・一酸化窒素吸入療法に関する手術日当日の診療報酬算定について（10月）
  - ・末期心不全患者への訪問看護の医療保険適応のお願い（VAD協議会及び10学会,1月）
  - ・Z-5カテーテル早期承認の要望書（1月,厚労省及びPMDA）
  - ・Z-5カテーテルの供給継続に係る要望書（JCIC及び小児循環器学会,4月）
  - ・プレドニン薬価見直しに関する要望書（6月）
  - ・小児重症心不全に対する小児用体外式補助人工心臓（EXCOR Pediatric）の整備充足に関するお願い  
（進行中,心臓移植・心肺同時移植関連学会協議会及び10学会1協議会）
- ・学術集会会長報告

1) 第57回学術集会会長報告（白石理事）

Hybrid形式で準備を進めており、JCK3カ国フォーラム、国際小児心臓肺移植シンポジウムも併催する。現時点で1502名の事前参加登録がなされている。理事の方々は是非現地参加をお願いしたい。

2) 第58回学術集会会長準備状況報告（土井理事）

2022.7.21-23、札幌での開催に向けて定期会議を開始している。「こころを紡いで命を繋ぐ」をテーマに幅広く小児循環器を考えたい。

・委員会報告

資料に基づき、2年間の活動総括及び継続案件について報告された。

1. 学術エリア（担当：土井理事、三谷理事、山岸正明理事）

1-1 教育委員会報告（稲井委員長 代：土井理事 外科系：中野理事）

内科系教育委員会：教育セミナーベーシック・アドバンストコースをウェビナーで実施し多くの参加があった。アドバンストコースを含め次回以降の開催方法を検討し継続する。

外科系教育委員会：若い心臓外科医の教育に主眼を置き教育セミナーを開催した。次年度も継続する。

1-2 ガイドライン委員会報告（豊野理事）

4つの和文ガイドラインを作成、1つを英文化した。他3つも英文化を進めている。

今後も日本循環器学会等との合同ガイドライン作成を主軸に、小児循環器特有のテーマの探求が重要。また、胎児心エコー検査ガイドラインは外部監査が約6ヵ月行われず、完成が遅延した。

作成進捗状況の管理体制も課題である。

1-3 研究委員会報告（先崎委員長 代：土井理事）

研究課題Aが追加された。担当者を決定し活動を継続する。

1-4 学術集会企画委員会報告（笠原委員長 代：土井理事）

コーディネーター制度とし学術集会の企画を行ってきた。今後、学会と学術集会会長の役割分担及び学術集会企画委員会運営マニュアルの見直しが必要と考えられる。

1-5 疫学遺伝子形態データベース委員会報告（犬塚委員長 代：土井理事）

6題の調査を実施し、4題投稿、1題報告書作成、1題調査継続中である。また、展示標本の劣化が進んでおり維持管理及びオンラインコンテンツの作成を継続したい。

## 1-6 関連学会ジョイント講演選定委員会報告（土井理事）

国内外の関連学会から依頼があったセッションについて渉外委員会担当委員と共に座長、演者を選定した。学会によりセッションの有無や依頼方法は異なり、渉外委員会との連携、JCK・APPCS・WCPCCS等の演者選定が課題である。

## 2. 次世代エリア（担当：坂本理事長、山岸敬幸副理事長、岩本理事、芳村理事）

### 2-1 将来計画委員会報告（坂本理事長）

学会運営体制の基本構築、予算計画・決算の整理、学術集會会長の選定方針の改正を行った。学会名変更の可能性について検討した。COVID-19感染症の流行に伴い、会員・病児と家族へ情報提供を行った。オンライン会議及び学術会議のweb開催への変更などに対応した。

### 2-2 次世代育成委員会報告（芳村理事）

「先天性心疾患の手術を行う施設の集約化」の制度設計について検討してきた。次回学術集會において働き方改革・次世代育成委員会合同シンポジウムを企画した。議論を得て学会としての提言をまとめたい。

### 2-3 働き方改革委員会報告（岩本理事）

小児循環器医師の労働環境改善のためのアンケートを実施し、第56回学術集會で第1報を報告した。第57回学術集會では、次世代育成委員会との合同セッションで行う。

アンケート第2報として細かい分析を加えて報告し、更に小児循環器内科の適正な働き方について提案する。

評議員の女性医師の割合が少ない。引き続き女性評議員を増やす事を目指す。

### 2-4 多領域専門職委員会報告（仁尾委員長 代：山岸敬幸理事）

学術集會企画としてシンポジウムを企画した。多領域専門職から評議員5名が承認された。

今年度ウェビナーでミニカンファレンスを開催し約90名の参加があった。今後も計画予定である。

## 3. 専門医エリア（担当：鮎沢理事、中野理事）

### 3-1 専門医制度・認定・試験委員会報告（鮎沢理事）

2020年度実施の専門医試験では50名が受験し、44名が合格した。

日本専門医機構認定サブスペシャリティ専門医移行について手続きを行って来たが、今年度の追加認定はしない方向と連絡があった。

### 3-2 専門医試験委員会報告（松井委員長 代：鮎沢理事）

次回試験は11月第1日曜（11月7日）に決定し、準備している。

### 3-3 専門医カリキュラム委員会報告（麻生委員長 代：鮎沢理事）

専門医修練目標の改定を行った。次年度公表予定。

## 4. 保険診療臨床試験エリア（担当：三浦理事、住友理事）

### 4-1 保険診療委員会報告（小野委員長 代：三浦理事）

2020年度診療報酬改定で認可された「心筋電極を用いたICD・CRT・CRT-D植込み手技」を外保連試案に掲載するため実態調査を行い、日本不整脈心電学会と協力し外保連に提出した。外保連に加盟した。

#### 4-2 臨床試験委員会報告（三浦理事）

8つの治験の支援を行っている。また学術集会で臨床研究よろづ相談を継続して開催している。

#### 4-3 医療材料機器・HBD 報告（杉山委員長 代：三浦理事）

新しいカテーテル治療導入について検討した。経カテーテル肺動脈弁留置術管理委員会は別に設置した。

#### 4-4 薬事委員会報告（坂口委員長 代：三浦理事）

イバブラジン小児適応取得に向けて活動した。またβ遮断薬添付文書改訂の要望、55年通知についてアミオダロン、ビソプロロールの申請を検討した。

### 5. 社会制度エリア（担当：白石理事、賀藤理事、檜垣理事）

#### 5-1 小児慢性・難病対策委員会報告（檜垣理事）

小児慢性特定疾病・指定難病等公的助成制度についての情報共有及び疾病の追加申請、医療情報アップデート等の依頼に対応、患者団体のヒアリングなどニーズの把握、調査実施及び解析、報告書作成協力を実施した。

#### 5-2 移行医療委員会報告（城戸理事）

総務委員会と共同し、小児循環器学会 HP に一般向け HP を作成している。また、日本小児科学学会移行支援委員会に協力し、成人移行支援連携指導料保険収載申請に向けて資料収集を行った。

#### 5-3 学校検診委員会報告（牛ノ濱委員長 代：白石理事）

学校心臓健診の現状把握を目的に委員が在住する11都道府県でアンケート調査を実施した。その結果を学術集会で報告予定である。

#### 5-4 蘇生科学教育委員会報告（太田委員長 代：檜垣理事）

「学校管理下 AED の管理運用に関するガイドライン」を作成した。また児童生徒の院外心停止登録研究、学術集会における市民公開講座を予定している。

### 6. 医療安全・倫理エリア（担当：赤木理事、賀藤理事）

#### 6-1 医療安全委員会報告（田中委員長 代：赤木理事）

医療安全講習会の計画等継続して活動した。

#### 6-2 倫理委員会報告（前田委員長 代：赤木理事）

申請のあった3題について倫理審査を行った。また倫理委員会規定及び倫理指針の改定を行った。

#### 6-3 利益相反委員会報告（中島委員長 代：赤木理事）

日本医学会 COI 管理ガイドラインの改定に伴い COI 指針及び細則の改定を行った。また、他委員会より4件 COI に関連する検討依頼があり審査を行った。

### 7. 総務エリア（担当：安河内理事、豊野理事）

#### 7-1 総務委員会報告（豊野理事）

月1回の定例会議により計画的に活動してきた。移行医療委員会と共同し、学会の一般向け HP を更新し9月に公開予定である。評議員関連の定款施行細則を改定し次回更新より適応される。学会資料のクラウド化、各委員会業務タスク表と年間スケジュール表作成が実施されるよう活動した。学会資料のクラウド化は、今後理事長指導の下学会全体で行うことになった。

学会事務処理量の増加に対して今後事務局の事務処理能力の強化が必要。

また分科会規約に基づき日本小児循環器学会分科会からの年1回報告の依頼が必要と考える。

#### 7-2 顕彰委員会報告（平松委員長 代：豊野理事）

功労賞、高尾賞、YIA、CRA、宮田賞の選出を行った。また、功労賞規約を2020年8月に改訂し理事長、副理事長、理事の推薦となった。

#### 8. 移植委員会（福嶋委員長 代：鈴木理事）

全国心臓・肺移植患者の予後調査を開始した。移植医療推進活動は、2020年はCOVID-19蔓延のため中止となった。心臓・心肺同時移植関連学会協議会と連携しながら、小児心臓移植実施施設基準を決定し、新規施設として成育医療研究センターと九州大学が承認された。EXCORに関する要望書の提出、研修セミナーの実施を行った。

#### 9. 渉外委員会（担当：安河内理事）

AEPC, AHA, TSPC, 3カ国HF, APPCS, WCPCCS, などの海外学会との交渉を行ってきた。現在AEPC, AHAのMOUの見直しと再締結が必要。また、海外招請講演者および座長に関する事務処理について、学術集会開催マニュアルも含めた確認と整備、2021年以降のWEB開催の場合の対応、3カ国HFの手続き(規約またはMOU)等が必要となる。渉外委員会の引き継ぎ資料と年間スケジュール表についてはすでにまとめたものを学会クラウドで上げていただくように提出済み。

#### 10. 編集委員会（担当：須田理事）

和文誌、英文誌の発刊、投稿規定の改定、査読依頼の為評議員の専門分野をリスト化した。英文誌のPubMed掲載及びIF獲得を目標とすることとなった。

#### 10. 関連学会より

##### ・日本循環器学会・日本川崎病学会・日本小児科学会（三谷理事）

小児循環器、成人先天性心疾患に関する基本計画について関連学会の動き、先天性心疾患の移行医療に関する横断的検討会の活動及びクリニカルインディケーターが不足していることが報告された。

またMIS-C/PIMSの情報提供があった。

#### 11. 閉会

以上をもって本日の議事を終了とし、議長から議事への協力に謝辞があり、閉会した。

上記の議事の経過及び結果を明らかにするため、この議事録を作成し議長並びに議事録署名人がこれに押印する。

2021年7月2日

議長

坂本 喜三郎

議事録署名人

岩本 眞理

議事録署名人

城戸 佐知子

(以下余白)

(以上)